

現場での取り組み

ヒヤリハット、事故の芽

「1件の重大災害(死亡や重症事故)の下には29件の軽症事故があり、その下には300件のヒヤリハットがある」という災害の法則があります。(アメリカ人の安全技師が発表した「ハインリッヒの法則」)日頃から「ヒヤッとした」「ドキッとした」経験を各々がメモにして発表することで全社員が共通認識を持ち、その原因・対策を考えることで事故の芽を少しでも摘み取るとうとするものです。情報は各職場から集約され、鉄道保安総合委員会などで報告されます。今後は情報の有効活用を促進していきます。

知識・技能の向上

各部門では知識・技能を向上させるため、業務研修会や講習会などを開催しています。また、風通しのよい職場風土が鉄道の安全に寄与するとの考えから、内部コミュニケーションの促進を図っています。

車両部門の「運転保安に関する意見交換会」など、現場係員と管理者がコミュニケーションを行い、課題を伝達しあえる場としています。

技術の継承

● 車両部門の取り組み

車両部門では作業手順書などを作成して技能・技術力の保持に努めていますが、今後の大量定年時代を見据え、平成13年11月から実施している技術勉強会をより技能の継承にシフトしたものとし、年間6回以上実施しています。また中堅社員を対象に指導者育成の研修会を開催し、修了者の指導により技術継承が円滑に行えるようにしています。なお、中央職業能力開発協会より、高度熟練技能者として6名が認定を受けています。

また、過去の重大事故の教訓を継承するために重大事故年表を作成し、安全マネジメント教育などで周知徹底しています。



技術継承の勉強会 ▶

Message

作業を安全、正確、迅速に行うにはマニュアルはもちろん、経験を積むことが大切なので、日頃からマンツーマンで時間をかけて技術の伝承に取り組んでいます。若手にはまず安全第一に、そして疑問があればその場で質問する積極性を持って、失敗を恐れず常に前向きに技術習得に取り組んで欲しいですね。



北村 保
【鉄道事業部 車両課】

● 電気部門の取り組み

電気部門では、作業者の安全確保や障害発生時の迅速な復旧を目的として、毎年「実設訓練」や「障害復旧訓練」を実施しています。また、平成14年から業務研究発表会を開催し、さまざまな課題に対する議論を通じて技術力の向上に努めています。



◀ 実設訓練

Message

過去に発生した重要障害が実設訓練や業務研究発表会によって理解でき、施設を運用保守するための技術・知識の向上に役立っています。



渡瀬 博幸
【鉄道事業部 電気課】

● 保線部門の取り組み

軌道を保守する技術力を維持するために、平成16年より社内に技術継承プログラム委員会を立ち上げ、策定した年間計画に基づいて現地研修(年2回)や机上研修(年4回)を実施しています。



現地研修では、経験豊富な社員が中心となって若手社員に訓練を行っています。保線作業の要領や防災時の対応などの技術継承に努めています。



机上研修では、軌道に関するあらゆるテーマを取り上げ、発表や議論を通して、知識の習熟に努めています。

Message

鉄道事業において保線とは、「線の下力持ち」であり、列車の安全走行の重責を担っているとの意識を持ち、若手社員を指導しています。



小村 和孝
【鉄道事業部 保線課】